

## 【 参加団体の成果物 】

### 《日本キャンプ協会》

- ・ 最終報告会 発表資料
- ・ アクションプラン
- ・ ワークシート

# 修了プレゼンテーション

NPOの組織づくりサポートプログラム



**NCAJ**

National Camping Association of Japan

2016年2月2日(火)  
公益社団法人日本キャンプ

# 1. アクションプラン

## テーマ

➤ 51年目からの日本キャンプ協会

## 目的

➤ 日本キャンプ協会の現状を踏まえ、51年目からのあり方を検討し、当面(2015-2016年度を中心に)取り組むべきことを決める

## 現状と課題から

- 「支えたい」と思われる事業運営とそれを支える体制
  - ①変化に対応できる意思決定の仕組みづくり
- 「支えたい」と思われるビジョン・ミッション
  - ②新たなビジョンをたてる

現行制度における会員の維持(増加)

指導者会員は今後も日本キャンプ協会にとっても重要な柱でありつづける。

新しいビジネスモデル(新たな支援者)の開発

新しいビジョンの下で目指すもの。

バランスよく！

統治機構の改善

協会運営における「戦略」「管理」「実行」の役割分担を明確にして、「日本キャンプ協会がすべきこと」が着実に実行されるような仕組み

# アクションプラン①「変化に対応できる意思決定の仕組みづくり」

現 状	
戦 略 管 理	代表理事・業務執行理事
実 行	職員
支 援	運営委員等



目指す形	
戦 略	常任理事(仮称) ※「戦略立案タスクチーム」を事業分野ごとに設ける。
管 理	業務執行理事
実 行	職員(administration) 運営委員等
支 援	外部アドバイザー等

## 現状と理想のギャップを埋める施策

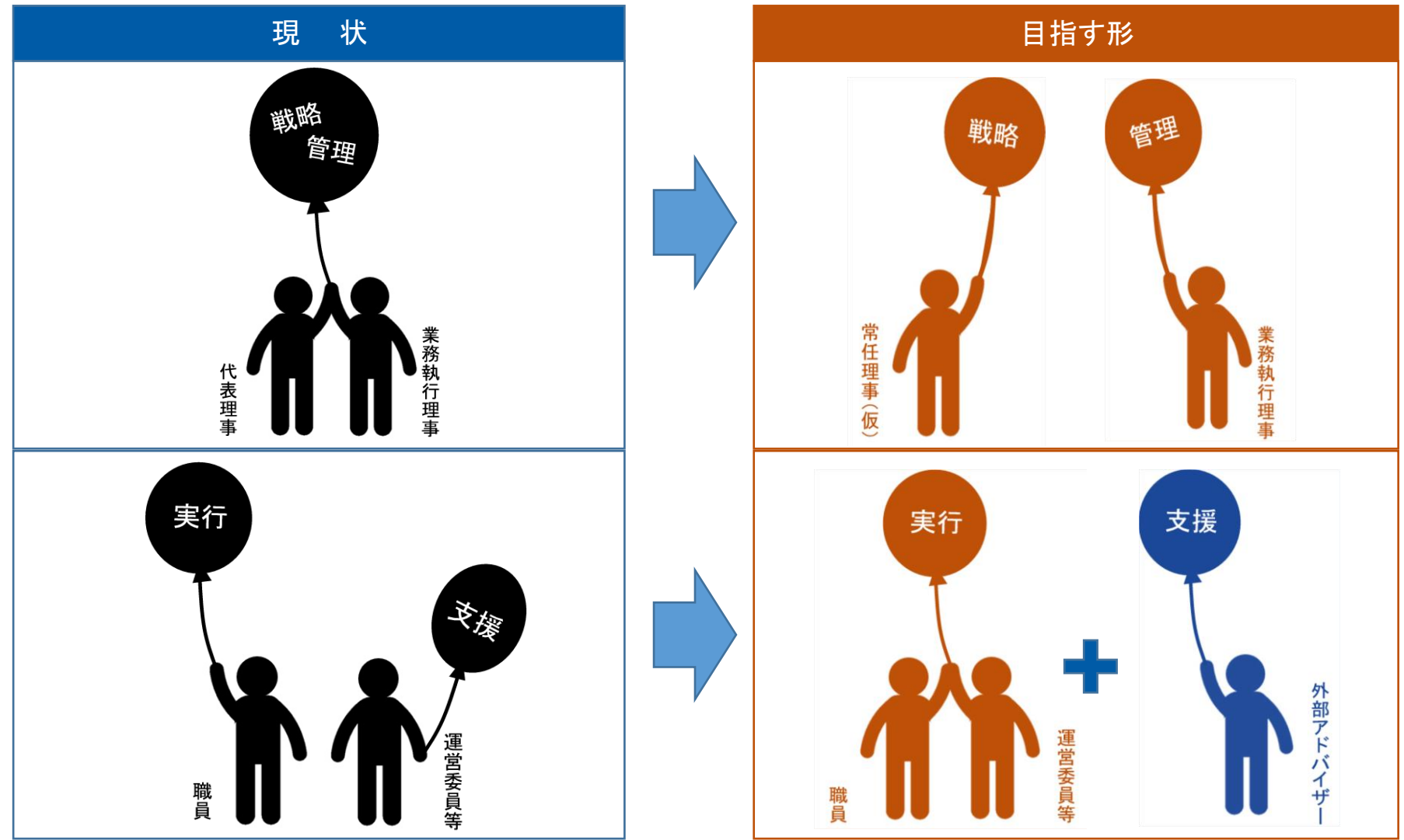
常任理事会・「戦略」を担当  
 ※草案は事業分野ごとの「戦略立案タスクチーム\*」が作成  
 年2回程度開催

業務執行理事会・「管理」を担当  
 ※事業が計画に従って実施されているかのレビューを行う  
 頻繁に開催(オンライン会議なども活用)

兼任者(常任理事会・業務執行理事会間の意思疎通を担う)

理事

# アクションプラン①「変化に対応できる意思決定の仕組みづくり」



# アクションプラン①「変化に対応できる意思決定の仕組みづくり」

現状と理想のギャップを埋める施策

## 常任理事会

戦略



※草案は事業分野ごとの「戦略立案タスクチーム\*」が作成 年2回程度開催

## 業務執行理事会

管理



※事業が計画に従って実施されているかのレビューを行う 頻繁に開催(オンライン会議なども活用)

兼任者(常任理事会・業務執行理事会間の意思疎通を担う)

理事

## アクションプラン①「変化に対応できる意思決定の仕組みづくり」

### 2. 成果・実績

- 体制変更について現執行理事会で検討を行い、体制変更に向けた話し合いを進めている。
- 定款の変更が必要となるため、改定案を検討している。
- 次期役員改選にむけて、理事(代表理事／執行理事／常任理事)の検討と新たな理事候補への打診を行っている。

# アクションプラン①「変化に対応できる意思決定の仕組みづくり」

## 3. 実行プロセス.

タスク名	担当者	11月				12月				1月				2月				3月				
		1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	
体制変更について 現執行理事会における検討	金山						●								●							
定款改定の原案作成	金山			●	●	●		●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	理事会 で検討	●	●	
定款改定の承認	金山																		※6月の総会での定款 改訂承認を目指す			
理事(代表理事/執行理事/ 常任理事)の検討と打診	金山						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	理事会 で検討	●	●	
戦略タスクチーム構成の検討 と打診	秋山															●	●	●	●	●	●	
理事改選/代表理事・業務 執行理事・常任理事(仮称)の 決定	秋山																		※6月の総会での定款 改訂承認を目指す			



## アクションプラン②「ビジョンを明確化する」

### 現状

- ・日本キャンプ協会のミッション「キャンプの普及・発展を通じて、キャンプによる社会貢献を推進し、幸福な社会の実現に資する」は正しいが、「キャンプ」、「幸福な社会」という言葉が多義的であり、あいまいな部分があるため、社会に対するアピール力としては弱い。
- ・もう少し「キャンプ」「幸福な社会」の具体的な内容を示し、それに沿った事業を行いたい。

### 理想

- ・時代に合わせてより明確なミッションを明示する。
- ・関係者がミッションを理解し、説明できる。
- ・社会的に見える形で「キャンプのいいところ」を示せられる。

### 現状と理想のギャップを埋める施策

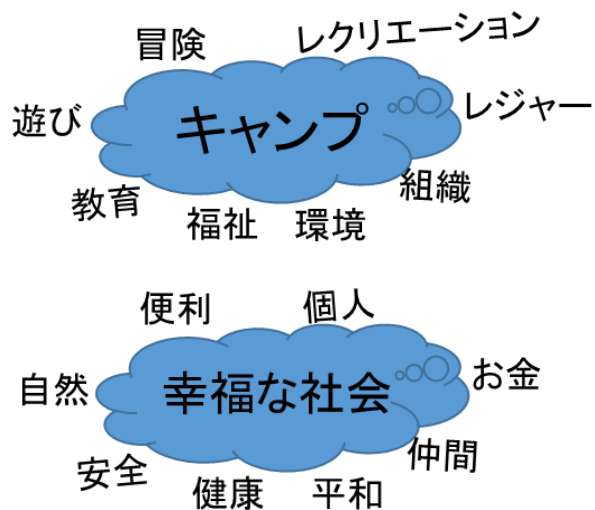
- ・ビジョン・ミーティング (VM) を実施する。  
 現在協会に関わっている方々の思う協会像、めざす協会像を探り、51年目に打ち出すべきミッション・ビジョンを検討する。  
 最低1回、出来れば2回。1回2時間程度。メンバーは現理事、新理事候補者(タスクメンバーから5~6人)、顧問(2人)、レジリエンス関係者・団体(医療、グリーン、女性活躍など)、関係団体(当て職になる団体、次期、理事候補者)。

## アクションプラン②「ビジョンを明確化する」

### 現 状

#### ミッション

「キャンプの普及・発展を通じて、キャンプによる社会貢献を推進し、幸福な社会の実現に資する」



社会に向けたアピールが弱い



### 目指す形

#### ミッション

「キャンプの普及・発展を通じて、キャンプによる社会貢献を推進し、幸福な社会の実現に資する」

**キャンプ**  
オーガナイズド・キャンプ

**幸福な社会**  
一人ひとりがレジリエンスを  
身につけた社会

社会に向けたアピール力  
オーガナイズド・キャンプが  
レジリエンスの獲得に有効

## アクションプラン②「ビジョンを明確化する」

現状と理想のギャップを埋める施策

### ビジョン・ミーティング

- 現理事 ●新理事候補者 ●顧問 ●タスクメンバー
- レジリエンス関係者・団体（医療、グリーンフ、女性活躍など）
- 関係団体（当て職になる団体、次期、理事候補者）

現在協会に関わっている方々の思う協会像、めざす協会像を探り、51年目に打ち出すべきミッション・ビジョンを検討する。

1回～2回 1回2時間程度

## アクションプラン②「ビジョンを明確化する」

### 2. 成果・実績

- ビジョン・ミーティング開催許可を得て、第1回目を開催した。  
51年目以降のビジョンについて、関係者より幅広い意見を得た。

#### 第1回 ビジョン・ミーティング

日時:2015年12月12日(土) 16:00~18:30

場所:エコギャラリー新宿 2階 研修室

出席者:19名

(理事、新理事候補者、顧問、運営委員、県協会)

#### グループでの話し合いテーマ

「日本キャンプ協会の51年目以降のビジョンについて」

※51年目以降=2017年から5年後を目安に

- 第2回目を開催する。論点を絞った議論と、  
ビジョン案を作成する。

#### 第2回 ビジョン・ミーティング

日時:2016年2月29日(月) 14:00~16:30

場所:国立オリンピック記念青少年総合センター

目的 (ミッションの中長期ビジョン)

A

事業

前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.

B





## 4. 課題とネクストステップ ※理事幹事からのフィードバック含む

### ①「変化に対応できる意思決定の仕組みづくり」

- 大きな機構改革なので十分な議論が必要

### ②「ビジョンを明確化する」

- 「ビジョン」そのものについての共通理解
- 50周年記念式典のある10月を目指したまとめ

## 5. 研修の感想



NCAJ

National Camping Association of Japan

ご清聴ありがとうございました。



## (参考)ステートメント

### A(存在理由)

多くの人々がオーガナイズド・キャンプ(組織キャンプ)を通じてレジリエンスを身につけ、困難な状況に立ち向かう(負けない／折り合いをつける)ことができる社会  
 ※「レジリエンス」「組織キャンプ(オーガナイズド・キャンプ)」などの用語は要検討

### B(問題構造)

レジリエンスの獲得を意図的に進めることが求められている。

### C(役割定義)

- ・ 病児キャンプ、障害児キャンプ、グリーフキャンプなどを実際に行っている実践者とのネットワークがあり、そこから学ぶことができる／協力してキャンプを実施できる
- ・ 指導者養成制度を持っており、改良を加えることで、レジリエンスの獲得にフォーカスした指導者の養成を行うことができる→将来の実践者ネットワーク

### D(問題解決仮説)

- ・ レジリエンスにフォーカスした指導者養成制度の改善・課程の新設
- ・ 効果を測定し、成果を報告することのできるキャンプの実践
- ・ オーガナイズド・キャンプがレジリエンスの獲得に有効であることを周知させる取り組み

## 課題の整理

現行制度における会員の  
維持(増加)

指導者会員は今後も日本キャンプ  
協会にとっても重要な柱でありつづ  
ける。

新しいビジネスモデル  
(新たな支援者)の開発

新しいビジョンの下で目指すもの。

バランスよく！

### 統治機構の改善

協会運営における「戦略」「管理」「実行」の役割分担を明確にして、  
「日本キャンプ協会がすべきこと」が着実に行えるような仕組み

組織名： 公益社団法人日本キャンプ協会  
 記入者： 吉野宏美

日付： 2015年11月16日

①課題テーマ

取り組みたい 課題テーマ	<b>ミッション・ビジョンを明確にしたい！</b>
-----------------	---------------------------

②課題テーマにおける組織の現状と理想

現状 ※できるだけ具体的に起きている事象を書いてください
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本キャンプ協会」という名称から受ける印象がさまざま。名が体を表していない。</li> <li>・設立当初から「キャンプ=なんでもOK」と間口を広げてきたことで、関わる人たちの思う協会像もバラバラ。</li> <li>・「日本キャンプ協会って何をする団体？」と聞かれたとき、みなが同じ回答をできない。説明に時間がかかる。</li> <li>・社会的な見える形で「キャンプのいいところ」が伝えられていない。</li> </ul>



理想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本キャンプ協会って何をする団体？」と聞かれたとき、関わる人がみな同じように、30秒以内に説明できる。</li> <li>・「キャンプ=なんでもOK」という間口を否定するのではなく、時代に合わせてより明確なミッションを明示する必要があると、関係者が理解できている。</li> <li>・社会的な見える形で「キャンプのいいところ」が示されている。</li> </ul> <p>ゴール：2016年10月。50周年式典での、51年目以降の方針について発表する。</p>

③課題解決施策

現状と理想のギャップを埋める施策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジョン・ミーティング (VM) を行なう。</li> </ul> <p>現在、協会に関わっている方々の思う協会像、めざす協会像を探り、51年目に打ち出すべきミッション・ビジョンを検討する。              最低1回、出来れば2回。1回2時間程度。メンバーは現理事、新理事候補者（タスクメンバーから5～6人）、顧問（2人）、レジリエンス関係者・団体（医療、グリーフ、女性活躍など）、関係団体（当て職になる団体、次期、理事候補者）。</p>

④アクションプラン

タスク名	担当者	11月				12月				1月				2月				3月				
		1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	
VM開催の許諾・連絡	吉野			●																		
VM①実施に向けて資料作	林・吉野			●	●	●	●															
VM①開催	林・吉野						12日●															
VM①開催を受けて、整理	林・吉野							●	●	●	●	●										
VM②開催	林・吉野										●	●	●									
VM②開催を受けて、整理	林・吉野										●	●	●	●	●	●	●	●				
理事会開催（投げかけ、	金山																			12日●		
理事会を受けて、整理	林・吉野																			●	●	→ 5月理事会
理事会開催（報告、	金山	→ 2016年5月14日																				
理事会を受けて整理、完成	林・吉野	→ ～2016年10月1週																				
ミッション・ビジョン発表	金山	→ 2016年10月28日（50周年記念事業）				⇒ 会報誌への掲載、2017年度事業への反映など																

# 「社会を変える計画」ステートメント



私たちが実現したいのは **A** という社会です。

しかし、**B** という構造になっていて実現できていません。

これを解決するためには、  
行政・企業・他NPOなどの他組織と役割分担し、

私たちは **C** という強みを活かし **D** という  
事業・活動をすることで、問題解決に最も貢献することができる  
と考えています。

だから私たちは **D** することで **A** を実現します。

# 「社会を変える計画」ステートメント

## A (存在理由)

(レジリエンスが欠けた状態にある) 多くの人々が組織キャンプ(オーガナイズド・キャンプ)を通じて、レジリエンスを獲得できる社会

※「レジリエンス」「組織キャンプ(オーガナイズド・キャンプ)」などの用語は要検討

## B (問題構造)

「キャンプ」が多義的で、「組織キャンプ」への理解が十分ではない

効果が期待できる長期間のキャンプを行うことが難しい(人的問題・資金的問題)

レジリエンスを必要とされる人のキャンプ参加が難しい(接点の少なさ・資金的問題)

## C (役割定義)

(存在理由に合わせた改善は必要だが) 指導者養成制度を持っている  
国内外の実践者とのネットワーク

## D (問題解決仮説)

レジリエンスの獲得にフォーカスした指導者養成の改善・課程の新設

レジリエンスの獲得を必要とする人々を支援している団体等との連携構築

効果を測定し、成果を報告することのできるキャンプの実践

組織キャンプがレジリエンスの獲得に有効であることを周知させる取り組み

# 「事業計画方針」シート

## 【方針メッセージ】

組織キャンプの「レジリエンスを高める」という効果に焦点を当て、認知度を上げることで、組織キャンプの潜在的な需要を掘り起こす。また、社会的意義を高めていく。そのためにフラグシップとなるキャンプの開催や、新たな経営基盤を模索する。

	前年比	重要指標		計画達成するための重要ポイント
		現状 (2015年度)	計画 (2017年度※1)	
成果目標 社会的成果	↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者「レジリエンス」認識率 8%</li> <li>年間組織キャンプ開催数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者「レジリエンス」認識率 16%</li> <li>年間組織キャンプ開催数10%増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の露出を増加させる。</li> <li>組織キャンプの実態について把握する。</li> <li>組織キャンプの効果を確認しやすい集団へのアプローチ</li> <li>フラグシップキャンプの担い手になる指導者へのアプローチ</li> </ul>
資源調達 収入	↑	1755万円	2000万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者資格制度に関わらない支援者の獲得(支援の方法の準備)</li> <li>キャンプを運営するための大口資金の提供元として企業にアプローチ</li> </ul>
必要資源 支出	↑	1755万円	2000万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>フラグシップキャンプの開催へ投資し継続的な調査を行う</li> <li>組織キャンプの実態把握のための調査への投資を行う</li> <li>支援者獲得のためのツールを用意する</li> <li>レジリエンス獲得効果へフォーカスした指導者の養成課程の作成</li> <li>上記課程を修了した指導者のネットワーク構築 ※2</li> </ul>

# 「組織図」シート

組織  
基盤

現状	<del>2014年度</del>	来期	2016年度
----	-------------------	----	--------

	普及(レジリエンス)	指導者養成	Fund Raising	管理
戦略	柴田(非常勤執行理事) 針ヶ谷(非常勤執行理事)	〇〇(非常勤執行理事)	神崎(非常勤執行理事)	金山(常勤執行理事)
管理				
実行	五月女(常勤職員) 林(常勤職員)	前田(常勤職員)	吉野(常勤職員)	秋山(常勤職員)
	キャンプチーム(運営委員等) PRチーム(運営委員等) 県協会(直轄でない)	養成チーム (中村・富山・鈴木ほか運営委員) 県協会・課程認定団体(直轄でない)	資金チーム(賛助会メンバー等)	
支援	医療・心理などの専門家		賛助会(仮称)	神谷(運営委員・税理士) 〇〇(マネジメント)

